

そらんぽへ行こう

固 四日市公害と環境未来館 (TEL) 354-8065 (FAX) 329-5792

情報検索コーナーをしてみよう

「四日市公害と環境未来館」の常設展示室の中央辺りに、4台のモニターが並ぶ「情報検索コーナー」があるのをご存じでしょうか。このコーナーでは、公害の年表・公害のアルバム、四日市公害関係者のインタビュー証言映像など多くの情報を閲覧することができます。

中でも、四日市公害関係者のインタビュー証言映像では、実際に公害の被害に遭われた人や、公害の解決に向けて支援をした人、企業関係者、行政担当者など60人以上が「ぜ



情報検索コーナー

ん息のつらさ」、「裁判を起こすまでの苦勞」、「大気汚染調査への取り組み」などといったそれぞれへの質問に、一問一答形式で答えており、来館者は気になるところから視聴することができます。

公害裁判判決から50年以上が経ち、実際に公害を経験された人から当時の話を聞くことが難しくなる中、これらは大変貴重な資料です。当館にお越しの際には、ぜひこの情報検索コーナーを活用してみたいはいかがでしょうか。

文化財さんぽ

固 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873

東海道99番目の 「三ツ谷の一里塚」跡

江戸時代の東海道には、約4kmごとに「一里塚」という旅人への目印が築かれていました。市内には、富田、三ツ谷、日永、内部の4カ所にあったとされ、それぞれ石碑や説明板などが建てられています。

その中でも、明らかに元の位置ではない場所に建てられている石碑が「三ツ谷の一里塚」跡です。なぜ位置が変わったのでしょうか。それは、昭和20年代に海蔵川を拡幅する工事で、元の塚が川に取り込まれてしまったからなのです。

元禄3(1690)年の絵図面には、「かい



三ツ谷の一里塚跡の石碑

ぞ川」のすぐ横の街道両側に「見つや」の塚の絵が描かれています。

現在ある石碑は、平成13(2001)年の「東海道宿場・伝馬制度制定400周年」を記念して、地元の「海蔵地区地域社会づくり推進委員会」が建てたものなのです。

海蔵川の有名な桜並木の傍らにひっそりとたたずむこの石碑は、江戸の日本橋から数えて東海道99番目の「三ツ谷の一里塚」が、かつてこの近くにあったことを今に伝えています。